

史料報

第72号

平成12年3月

文書を仏像に籠めるといふこと

千々和 到

1 「胎内文書」

私の本務校のゼミの四年生は、今年は一七人だった。だから一月には一七本の卒業論文を読んだことになる。大学事務局の一部からは、大学経営を第一に考えると、卒業論文のように手間ひまのかかることはやめて、就職の役にたちそうな講義だけ受講して卒業できるように、カリキュラムを「改善」すべきだ、という乱暴な「大学改革論」さえ聞こえる。今日このごろだが、私などは資料の収集や分析の力、そして自分の考えを仲間伝える能力をみがき、まともな文章を書けるようになるためには、就職講座のような速成栽培より卒業論文と取り組んだほうがずっとよい、といつまでも思い続ける「保

守派」でいたいものだと思えて考えている。

さて、出された卒論のうちに、中世の仏像の胎内におさめられたいわゆる胎内文書についてまとめられたものがあつた。その論文には、今からちょうど三〇年前に私の書いた卒業論文の一部を活字にしたものをわざわざ見つけ出してきて、引用と批評をしてくれた部分があつた。私ものなど、本当に未熟な史料紹介にすぎないもので、汗顔のいたりではあるが、やはり研究者冥利につきると言うべきだろう。それはともかく、その論文の筆者の篠崎好雅君によると、胎内文書という言葉は、古い辞書には出てこないで、最近の歴史事典に出てくる言葉なのだということ。それまで私などは考えてみたこと

目次

文書を仏像に籠めるといふこと	千々和 到	(1)
「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム開発に関する研究」について		(4)
「史料所在調査報告」		(5)
平成十一年度新取史料紹介		(7)
史料管理学研修会修了者一覽		(8)
受贈図書		(9)
報		(16)

もなかつたが、たしかにそう言われてみれば、胎内銘という言葉はよく聞かぬが、胎内文書のほうは、わりあい新しい言葉なのかもしれない。私自身のかの史料紹介の一文も「峰岡八幡宮僧形八幡像胎内納入文書について」(史学雑誌八一―一六)という題名だし、最近高幡不動の胎内文書についてまとめられた釈迦堂光浩氏も、「胎内」ということばが「母親の腹の中」を意味しており、仏像などの中に納入される位置はかならずしも像の腹部に限らないことから、「像内納入文書」ということばの使用を提唱しておられる(足もとの中世―地域史をひろげる(9) 像内納入文書―「高幡不動胎内文書」と中世の多摩川中流域―)月刊歴史手帖二四―一六)。

「像内」と「胎内」との違いもさることながら、私と釈迦堂氏とに共通する「納入」に注意したいという用語法は、仏像の像の中に「あつた」という現状よりも、そこに「納めた」という行為を重視しようということであろうか。

それがひとつだが、考えてみれば問題はむしろそこにとどまらない。つまり、文書を仏像の胎内に納めた時代、「胎内文書」はいつたいたいなんと呼ばれていたのだろう。「胎内文書」ではなかつたかもしれない。いや、おそらく「胎内文書」ではなかつただろう。碩学の先生にお聞きすれば、あるいは教えていただけるのかもしれないが、私が辛うじて思い当たる言葉は、「腹籠」という言葉である。

2 腹籠り

落語に、「井戸の茶碗」というのはなしがある。浪人の易者から仏像を買い受けた屑屋が細川家の侍にその仏像を売る、というところからそのはなしははじまる。その侍は、あまりにくすぶって薄汚れた仏像を洗い清めようとぬるま湯でこすっている

うちに、台座のところ貼つてある紙がはがれて、小判で五〇両という大金がこぼれ出た、そこでこの侍律儀にも、仏像は買ったが、この小判までは買っていない、元の持ち主を探し出して、この小判を返さなければ、一方の売ったほうの易者は、いや、その仏像はもう売ったもの、中にながはいっていいようが、売った自分にはかかわりのないもの、と展開していく(「井戸の茶碗(三代目柳家小さん)」「口演速記 明治大正落語集成 第七卷」より)。

ここで注意しておきたいのは、もちろんそのはなしの筋そのものではなくて、屑屋から仏像を買った侍がなにげなくその仏像を振り動かしてみると、ゴトゴトと中で音がする、というところで、「よく鋳物・彫刻物などに腹籠りと云つて中に仏が一つ入っているのがある、大方それだろうと思つて」というくだりである。そして中にはいついたのは「腹籠り」と思ひのほか、小判で五〇両という大金だといふのだから、明らかにこの「腹籠り」ということが、仏像の胎内に納めた別の小さな仏像を意味することがわかる。そして、その「腹籠り」は、ここでは「はらこもり」と読む。

では、「腹籠り」とは、仏像の胎内に納められた仏像のことだけを指すことばだろうか。

定かなことを言えないが、もともとはそれだけにとどまることはないと思う。

時代を遡って、中世のころの史料である。「建内記」の嘉吉三年三月二七日条に、次のような記事がある。すなわち、「本尊・列祖の冥慮測りがたし。本尊の御腹心に代々の遺書を籠めらる。これ遺像に准ぜらるるの謂なり。」

この記事は、米村直之氏のご教示によれば、「建内記」の記主である万里小路時房が自分の家の菩提寺である京都の浄蓮華院の境内で勧進猿樂が興行されようとしたことに、不快感を表明した文であるという。この中で時房は、この浄蓮華院の本尊の腹中には、列祖代々の遺書(現代の遺言書のような意味ではなく、故人の書いた消息などであろう)が納められており、したがつてこの本尊は列祖の遺像に准ぜられるものだと述べている。そのような寺で、勧進猿樂の興行をするなど、もつてのほか、というわけであろう。

このように故人の筆にかかる消息などの文書を仏像に籠めることは、

胎内納入文書ではしばしば行われるところであり、たとえば近年よく知られるようになった日野市の高幡不動胎内納入文書の場合も、南北朝の戦乱の中で戦死したのではないかと想像される山内経之という在地領主の消息がそのほとんどを占めている。この「建内記」の記事の重要なところは、そうした遺書を納入すること、その仏像が故人の遺像と同様になるのだ、という当時の人々の意識を私たちに告げてくれていることであらう。

そして、そのような消息の納入を、ここでは「腹心に籠める」、つまり「腹籠」と表現していることに注意することができよう。

3 「腹籠起請文」

ところで、「腹籠起請文」(「ふくろうきしょうもん」、とよむ)という巻物がある、と中山遠寿院のご住職の戸田日辰上人からうかがったのは、もう十年以上も前のことである。遠寿院は、日蓮宗の寺院でもと中山法華経寺の祈禱の行堂として建立されたものである。遠寿院の直接の前身である円立坊の草創が天正十九年(一五九二)のことだというから、

今から四〇〇年前のことである。その後、元禄年間のころに第三代日久上人が出て、祈禱の修法を大成し、それ以来、祈禱の根本道場としての地位を確立する。ちなみに、遠寿院という寺号は、この日久の院号である。

さて遠寿院では、いまでも毎年、十一月一日から翌年の二月十日までの寒中の百日間、祈禱の相伝を受けようとする僧侶たちが行堂にこもつて、水行をはじめとする荒行に明け暮れている。そしてその荒行を終えたときに、師匠(伝師とよぶ)に対して起請文を書くという。また、同時に巻物の起請文にも署名を加えるという。

この巻物のほうの起請文には、院内の制規に違背しないこと、相伝の師に対して決して違背しないこと、相伝を受けた秘法を他人に伝えないことなどを誓っているといい、これが「腹籠起請文」とよばれているのである。現代の「腹籠起請文」は信仰に深く関わっており、私などの拝見できるものではないが、江戸時代の「腹籠起請文」は像から出されてきて、拝見させていただくことができた。拝見したところでは、先師たちの置文(制規)が書かれた巻物

に、続けて行僧が連署していくといった形のものであった。

なぜこの起請文を「腹籠起請文」とよぶのかというと、行堂の本尊は等身大の鬼子母神なのだが、この巻物の起請文は、その本尊の腹中に納められるからなのだという。一般の胎内納入文書と同じく、誓約したひとの意志を仏像の胎内に籠めることよって、仏に届け、とどめようとしたと理解してよからう。ただ、この「腹籠起請文」が変わっているのは、その納入の仕方である。どのようになめるかというと、鬼子母神の背中に引き戸と棚とがついていて、その棚に納めるのだという。つまり荒行が終わるころに、この「腹籠起請文」を棚から出して行僧たちに署名をさせ、またあらためて背中の引き戸をあけておなかの棚に納めるのだというのである。

これは、考えようによっては、とても合理的なわけで、遠寿院では毎年荒行にはいる行僧がいるわけだから、一般の胎内納入文書のように、いれっぱなし、未来永劫に納めるというわけにはいかない。当然毎年毎年、出し入れをする必要があるのだから、その必要から生み出されたやり方なのだろう。

この行堂の鬼子母神は、行僧以外が拝むことは許されていないので、私はもちろんまだ拝見もしていないし、その引き戸や棚がどのような形状のものかは知らない。だから推測するだけなのだが、よく筆筒の上部にある引き戸のようなものではない

だろうか。筆筒というものが発生するのは十七世紀の半ばすぎで、世間一般に普及するのは、十七世紀の末頃の元禄年間ころからだという話を聞いた（小泉和子氏「筆筒」、渡辺浩一氏のご教示による）。それまでは「ひきだし」のない葛籠（つづら）や長持などが民衆の家具だったというのである。とすると、このような「腹籠起請文」の最古のものが元禄五年（一六九二）の署名からはじまるものだとすることは、とても興味深いことではないか。つまり、遠寿院の第三代の住職である久久上人が、相伝を受けた行僧の起請文を納めるための場所として、荒行の本尊である鬼子母神の胎内を考えたのだが、同時に、毎年繰り返し返して取り出し、また納入するという必要にも悩まされた。そこで当時新しく流行してきた筆筒の引き戸と棚にはたと気がついた、ということであろうか。

所伝では、行堂の鬼子母神像は、

元禄年間に京都の仏師如水によって作られたというから、時期的にも筆筒の流行にぴったりと符合することになる。

4 結びにかえて

このように遠寿院の「腹籠起請文」は、胎内納入文書としての性格を存分に持ちながら、他方では文書の出し入れが前提となっていて、大きな特徴がある。類似の例を、墓聞にして私はまだ聞いたことがないのだが、この例を胎内納入文書の例外とみるか、それとも意識の上では同一のものとするか、が論じられなければなるまい。ここでは紙数がつきて、そのゆとりはないのだが、この例が示してくれたことは、江戸時代のこの像の場合には、「腹籠起請文」の保管場所としての機能がこの鬼子母神のおなかに持たされている、ということであろう。とすれば、最近

山岸常人氏が注意された中世寺院の仏堂の持つもうひとつの機能としての文書保管の機能ともリンクする問題であるかに見える（「仏堂納置文書考」国立歴史民俗博物館研究紀要四五）。明らかにそこでは、「霊力」を有する空間しか持ち得ない機能が

期待され、そこに文書が納置されていたのである。

そのように考えてみると、少なくともこの像の場合には、胎内納入文書というものの意味は、それが仏像の胎内に「ある」という状態よりも、「納める」という所作のほうにより重要な意味があるということになるのではないか。

このように考える考え方を、胎内納入文書一般に適用することは、できないものだろうか。もしそれが可能だとするならば、「胎内文書」という名称よりは「胎内納入文書」という名称のほうがよさそうだということになるだろうし、あるいは「腹籠文書」という名称も、なかなか捨てがたい気がすると思うのだが、いかがであろうか。

（史料館客員教授・國學院大学文学部教授）



「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム開発に関する研究」について

◇「システム開発科研」のスタート
史料館は、これまで「史料所在情報検索システム」を開発し、全国の近世を中心とした史料データベースの構築してきた。これは史料館を単位として、その所在を検索しうるようにするものであつて、一九九九年中にその一部公開する予定で進めてきた。

史料所在データベースは一定の目的を達成したが、史料館では次の段階のシステム開発を計画して、今年度の科学研究費補助金を得てスタートさせた。それが、表記の「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム開発に関する研究」で、略して「システム開発科研」と称している。一九九九年度から二〇〇一年度までの三年間、総額一、四四〇万円 of 交付を受ける予定である。

新たな史料検索システムを「共同集約」「共有化」としたのは、これまでの所在データベースの規模を超えて、全国の歴史史料をカバーする情報を集約するには、各地の文書館

など史料収蔵機関との連携が必須であるからである。ここでは、全国に共通するシステムを制作し、コンピュータネットワークを通じて各館が情報を蓄積し、これを即時に共有化して、だれでも自由に史料情報資源の提供を受けることができるシステムの構築を意図している。

第一年目に当たる今年度は、こうしたシステムにはどのような性格をそなえるのが必要であるかを研究し、一部システムの試作の検討を行うこととした。共有化すべき史料情報が全国にわたるため、まず各地の文書館の意見を求める必要があり、国立公文書館、滋賀大学経済学部史料館、各道府県立文書館において関連の業務に携わっている館員に参集していただいた。第一回の開催は一月五日、六日、第二回は二月二一日、二二日で、それぞれ館外から二二名、二六名の参加を得た。

◇共有化の内容

各館の意見を求めたのは、まず基

本的なシステムのあり方についてである。史料館からは、まず、1. システムのあり方について、①データを特定個所に集約して公開する方法、あるいは②各機関が情報を別個に公開し、ネットワーク環境で検索する方法、2. 史料構造レベルをグローバルとするか、シリーズ、アイテムレベルまでとするか、どの深度までを検討することが適切か、3. データを公開する所蔵者の範囲を、①各館の収蔵史料のみ、②県内史料保存機関の収蔵史料に広げる、③個人が所蔵・管理している史料にまで広げる、4. データとして採録すべき項目について、これまでの所在データベースの項目、史料館編「史料館収蔵史料総覧」の項目、ISADの項目など、どの範囲に設定する必要があるか、5. その他について、意見を求めた。

共有化検討の中心点は、むしろ、1. システムのあり方にある。①はいわばデータの集中型で、特定の機関(例えば史料館)がデータを集め、あるいは書き込み窓口を置いて、これに入力する方式、②は、各館それぞれの方法でデータを蓄積し、この情報を検索するシステムを制作するというもので、とりあえず分散型と

よんでいる。各館の意見では、分散型を支持する意見が大半を占めたが、集中型あるいは両者の折衷型の提案もあり、流動的な要素も認められた。研究会では、同時に各館のコンピュータ環境も報告された。PCを導入したばかりという館もあるが、Web上の史料情報検索は、早晚、各館の課題となろう。システム開発科研の成果が、その一石になることを志している。

◇今後の取り組み

この三年間で、システムの構築を図るが、次年度は具体的なシステムの開発を試みる。

一方、すでに収蔵史料のデータベース内で蓄積し、Web上で史料情報を公開している機関のシステムに学ぶ必要を痛感した。さいわい今年度はすでに東京大学史料編纂所、新潟大学付属図書館を見学することができた。懇切なご説明をいただいた各館の方々には、あらためて紙上でお礼を申し上げます。

なお、今年度の同科研館内委員は、代表者の鈴江及び山田哲好、大友一雄、山崎圭各教官で、これに五島敏芳リサーチ・アシスタントが随時加わってきた。

(鈴江英一)

信濃国高井郡東江部村山田家文書(2)

昨年度に引き続き今年度も九月二日から三〇日までの四日間、一一月一六日から一九日までの四日間、

の二回にわたって山田頭五氏宅(長野県中野市)で所蔵文書の調査を行った。参加者は山田正子氏、湯本軍一氏、長野県短期大学横山憲長氏、長野県立歴史館から館林弘毅氏、梅原康嗣氏、田玉徳明氏、溝口登氏、春原正毅氏、清蘭堂堀田圭吾氏、当館から高木俊輔、安藤正人、青木睦、山崎圭の都合一三名であった。この他に、山田家の皆様、中野市教育委員会より多大な御助力を頂いた。関係各位には心より御礼を申し上げる。

山田家文書はその一部が現在当館の所有となつていゝものであるが、同家の略歴および文書の保管現況などについては昨年度の報告(「史料館報」七〇号)を参照していただきたい。今年度は昨年度に行つた概要調査の成果(文書容器レヴェルの概要と屋敷内の容器配置状況など)をもとに、二〇〇三年一〇月を一応の完結目標として段階的に調査を進めるといふ計画を作成し、内容調査に

着手した。なお、当館分については二〇〇二年三月の目録刊行を予定して整理を進めていゝところである。

容器の数は、箆笥から紙包まで同様に数えて全部で五八あるが、今回の調査では三番、四番、八番(以上は質蔵二階)、三六番、三七番、三九番(以上は文庫蔵二階)の各容器に収納された文書について調査した。三番は九つの抽斗をもつ箆笥で、一九七二年の母屋新築まではその座敷にあつて仏壇下に置かれていたといふ。明治末年から昭和初年のものが中心で、感謝状(諸神社・諸団体への寄付に対するもの)、祝儀・不祝儀関係、土地登記関係、横浜生糸合名会社ほかの株式関係など、その内容は多様である。

四番は左右二つずつ四段、計八つの抽斗をもつ箆笥である。この箆笥は、地主山田家が土地を集積するなかで集めた借金証文を保管する専用箆笥であつたと考えられる(主に明治期から昭和初年のもの)。この箆笥の各抽斗内側には、「中野、平穩」など地名を記した貼札が付されてい

て、質地の村別に抽斗を分けて整理されていた。証文の縦の長さも抽斗の奥行が揃えられているので、整然と収納されている。調査者の注目が集まつたのは、抽斗内に証文を仕切る形で置かれていた長板の存在であつた。これは右の例で言えば中野と

平穩を区切るためのものであるが、それと同時に証文を抽斗内法の高さにあわせて一定規格で折りたたむための宛板でもあることが判明した(「証文宛板」といふ墨書のあるものがあつた)。信濃最大の地主として大量に集めた借用証文を管理するにあつて、一定の工夫がされていた様子がかがえる。借金証文はこれ以外にも大量に残されているが、七代当主(天明文化頃)山田松齋の時には、質地の村ごと・年代ごとに仕分けをして、紙帯で括る作業をしている。保管方法が次第に整えられているとも言えようか。

八番は、二つの戸棚と八つの抽斗をもつ箆笥だが、開取りによると、この箆笥は山田家では重要物と意識され、長らく施錠されたまま鍵も失われていたものを、頭五氏が壊して開けたとのことである。収納文書の内容は、近世の割合がやや高い印象を受けることを除けば、かなり多岐

にわたつていゝ。そのなかでも寄付・救恤金に対する領収証のほか、屋敷地絵図、幕末維新期の質地証文・小作証文、御用金関係などは比較的まとまつて残されている。

三六番、三七番は、山田家が近年になつて古書店から購入した分家の山田理右衛門家文書である。この家の文書は、その一部が長野県立歴史館にも所蔵されているので、同館の方々が整理にあたり文書群の全貌を検討されている。この家は本家にかつて東江部村名主を勤めた期間が長く、年貢皆目録・宗門改帳など村方の基本帳簿を数多く残している。三九番は、昨年の報告にも記した千曲川掘割関係史料であり、これも歴史館の方々が整理を担当し、その一部は特別展などに今後生かされていくとのことである。

以上の内容調査を進めるとともに、今回の調査では、山田家文書を今後どのように保存していくかという観点から保存状態の確認も行い、今後必要とされる処置、必要となる物品などをリスト化して保存のためのプログラムも検討した。調査は始まつたばかりでまだ先は長いことと思われるが、大方の御協力をよろしくお願ひ申し上げたい。(山崎 圭)

信濃国佐久郡下海瀬村土屋家文書

一九九九年一月二日から二五日までの四日間にわたって、丑木幸男、山崎圭の兩名が土屋久寿弥太氏宅（長野県佐久町海瀬）で文書の調査を実施した。調査にあたって土屋家の皆様に御協力いただいたことにつき御礼を申し上げたい。

土屋家文書の大半は現在当館の所蔵となっており、その文書目録も『史料館所蔵史料目録』二四集として既に発刊されている。今回調査を行ったのは、地元である佐久町が『佐久町誌』の編纂を進める過程で調査した結果、同家に未整理文書が残されていると判明したことによる。貴重な情報を提供していただいた佐久町誌編纂室にも御礼を申し上げる。

この未整理文書は、木箱・ダンボール箱・手提げ袋などに入れられて、庭にある蔵二階の長持中に保管されていた（箱番号す・せ・そは別）。調査にあたっては、木箱など収納容器ごとに、あくそ、までの容器番号を付与し、容器ごとに収納史料の概要を記録した。史料の多さに比べて調査時間が十分ではなかったため、

一点ごとの内容目録までとることはできず概要調査にとどまったが、帳簿類など冊子型史料については極力表題をとることにした。以下に概要をごく簡単に紹介する。

あ：紀伊国屋の手提げ袋入り。佐久町誌編纂室が新出文書として整理したのはこの袋内のもの。全体を支配・土地・生活などに分類して封筒詰している。内容は多様だが近世期のものが比較的多く、名主人札などが注意をひく。

い：佐久セントラルホテルの手提げ袋入り。大袋に多量の文書が詰められているが、近世から明治の書状類が多い。ほかに満州分村関係書類、文久三年会所諸勘定取調帳、領収書類など。

う：ダンボール箱入り。明治初年から大正初年の貨幣（紙幣）収入（支出）簿など明治年間の経営帳簿多数。また明治二・三年「年中日記録」をはじめ明治の日記もいくつかあり。

え：木箱入り。昭和初年の領収証綴などが主。

お：黒塗木箱入り。上蓋裏書に「信州佐久郡下海瀬村土屋与左衛門

用、此箱何方へ前（参カ）り候とも名印方へ御かへし可被下候」とある。明治四〇年の字崩岩堤防工事関係書類が中心。

か：黒塗木箱入り。上蓋表書にチヨークで「発句集」とあり。上蓋裏書は右に同じ。嘉永から明治前半期の俳諧関係の典籍。

き：黒塗木箱入り。上蓋表書にチヨークで「祝儀香典帳」とあり。大正から昭和初年のもの。

く：小型のこおり入り。祝儀香典受納帳、結納目録など。大正年間前後のものがほとんど。

け：佐久セントラルホテルの手提げ袋入り。大袋に多量の文書が詰められており内容も多様だが、「安政以来手紙入」とある袋入書状（約一三〇点）、大正年間の金銀出納帳、明治一八年の村々から連合戸長（代理）宛書類引渡目録、明治後半期の海瀬村役場関係書類（予算関係、議事録、ほか）、など。

こ：ビニール袋入り。金銀出入帳、貸借明細帳、定期預金通帳など、明治末年から昭和初年のもの。

さ：佐久セレモニースターの袋入り。幕末期のものと思われる書状の束が多数あり、明治二・三年に活動した勸農役宛のものも見られる。

他に「衛生連合組合会集金入」の袋に入った明治期の書類（海瀬用水使用料訴訟調停関係、役場領収証、衛生掛辞令、ほか）など。

し：紙袋入り。名主人札一括。書状九点一括束。廻状・人馬触一三点一括束。人馬触三九点一括束。廻状・人馬触四七点一括束、など。

す：桐製箱入り。上蓋表書「古文書篋」とあり。内容は多様だが、幕末から大正の伴野氏関係のもの、秩父騷動関係のもの（役場書類保護の褒賞状、実見談ほか）、愛国婦人会関係書類、近世初期の御巢鷹関係文書、昭和期の歴史学関係者たちとの私信、など。

せ：特製桐箱入り。土屋伴野氏系図一卷。

そ：紙箱に一括して丸めて保管。地券三三枚。

土屋家に残されている文書の概要は右の通りで、明治期以降の下海瀬村を分析するに際しては当館分だけでなく、現地分の文書もあわせて検討する必要があると言えよう。また、近世についても書状などが多数残され、同じ一族から旗本になった伴野氏との長期にわたる交流などについても知る事ができた。今後の検討を要するだろう。（山崎 圭）

平成十一年度 新収史料紹介

⑤はマイクロフィルムによる収集を示す。

⑤ 山城国京都堀之上町万屋小堀家文書(2)

東京経済大学図書館所蔵の小堀家文書について、昨年度にマイクロフィルムで収集した分(P9801)に引き続き、残る「勘定帳」四七冊および「延方勘定帳」一四冊をマイクロフィルムで収集した。

本史料群は、当館所蔵の山城国堀之上町万屋小堀家文書と本来は同一出所のものである。当館所蔵分は同家の家関係の文書が含まれるのに対して、東京経済大学図書館所蔵分は決算帳簿を中心とするもので、江戸期商替商の経営を知ることのできる有数の史料群といえる。両者をあわせて検討することで、より小堀家文書の理解を深めることができよう。なお、二年間にわたる収集にご協力いただいた東京経済大学図書館の皆様にご心より御礼申し上げます。

⑥ 山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

近世中期から明治・大正期にかけて、京都堀之上町六角通りにおいて商替商として活動した小堀家の旧住居地は、現在、ホテル松井(代表取締役松井孝太郎氏)の所有地となっており、同ホテルでは小堀家旧蔵の「中勘定帳」一冊を所蔵している。

これは、決算帳簿のなかでも商替商としての小堀家の経営を分析するうえでの中核的史料である。東京経済大学所蔵小堀家文書には初期の「中勘定帳」一冊、当館所蔵文書には後期の「中勘定帳(原題:大宝永)」を所蔵するが、右の「中勘定帳」はその間の欠を埋めるものであり、かつ小堀家の経営がもつとも繁榮する重要な時期にあたる。本史料の収集をお許しいただいたホテル松井の皆様にご心より御礼申し上げます。

⑦ 伊豆国田方郡葦山江川家文書

江川家は近世中期以降代々幕府代官を勤めた家として知られている。同家には近世中期から幕末・維新时期にかけての代官文書が大量に伝来しており、幕府代官文書としては屈指のものである。代官研究をはじめ、江川代官支配下地域の研究を進める上でも貴重な史料である。

当館では、昭和四二年度に五四リールの文書を撮影し、さらに昭和六三年、平成元・二・九・十年の各年度に、都合三三リールを追加撮影してきた。しかし、明治初期のものを含め重要なものが少なくない。よって前年度に引き続きマイクロ収集を実施した。収集史料の内容は多岐にわたるが、三島・箱根・吉原宿などの宿助成、無宿者の取り扱い、御林・並木関係、海防、台場築造、難破船などをはじめとする代官関係文書と、江川家の財政に関する史料「御蔵米御勘定帳」や所領の金谷村関係史料などである。なお、同文書の閲覧には江川文庫の許可を必要とするので、利用に際しては事前にご館までご連絡いただきたい。

(現蔵者)江川文庫、静岡県田方郡葦山町葦山、電話〇五五九四一九一〇〇二、撮影史料点数一四〇点、

七リール、三四〇五コマ)

⑧ 飛騨国大野郡高山町高山町会所・戸長役場文書

マイクロフィルムによる史料収集を継続して八年目になる今年度は、戸長役場期から町村制施行後の教育関係史料を収集した。大正末年に高山町戸長役場史料・町役場史料を整理した際に評価選別して、保存することに決定した戸長役場期から町村制施行後までの史料を、主題別に編綴した「学事史料」(明治六年〜二五年)、「学校経営」(明治一五年から三五年)等である。そのほか、明治期の高山町役場日誌、「高山町役場新築二係ル書類」等役場新築関係史料および「宗門人別帳」のうち一之町村分(明治元年、二年、三年、四年)、二之町村分(明治元年、二年、三年、四年)、三之町村分(文政一二年、安政元年、万延元年、明治四年)を収集した。

膨大にある近世の町会所史料は収録を断念し、今年度で同文書のマイクロ収集作業は終了した。なお、高山市郷土館が同文書の日録刊行を計画している。

(現蔵者)岐阜県高山市上一之町七五番地、高山市郷土館、撮影点数三八件、一五リール、九〇八九コマ)

1999年度（通算第45回）史料管理学会研修会修了者一覧

[長期研修課程]

名 前	レポート題目	名 前	レポート題目
吉住 健 (兵庫県知事公室文書課主任)	兵庫県における歴史的公文書の収集システムについて	石村 篤史 (中野区立歴史民俗資料館専門研究員)	中野区の文書管理と将来への試案
呉 心之 (お茶の水女子大学大学院)	台湾における史料管理の現状	横山 陽子 (千葉大学大学院)	愛媛県宇和島市三浦田中家文書調査会の現状課題についての試案
赤澤 春彦 (中央大学大学院)	有志団体による古文書調査—中央大学山村研究会を例に—	寒川 登 (大阪教育大学附属図書館専門員)	都道府県立公文書館の普及活動の現状と課題
内野 豊大 (中央大学大学院)	『現状記録』の実践—京都府北桑田郡京北町古文書調査—	原島 春日 (日本女子大学大学院)	企業における文書管理
坂口 あかね (中央大学大学院)	『東大寺文書』の保存と整理に関する一考察—印鑑と公験唐櫃を中心として—	青山 桂子 (日本女子大学大学院)	国立武蔵野学院図書館・医務課・院長室の図書・資料について—開院から昭和13年の内務省管轄下—
鎮目 良文 (中央大学大学院)	大学資料館の可能性—大学アーカイブズをめざして—	根本 佐智子 (日本女子大学大学院)	川崎市市民ミュージアム取蔵池上家文書の伝来と特色
友田 昌弘 (中央大学大学院)	宮島誠一郎文書の目録編成上の問題点	倉橋 圭子 (お茶の水女子大学大学院)	情報の更新—『宗譜』修譜課程にみられる中国親族組織の特徴—
橋本 由起子 (中央大学大学院)	地域史料の保存と活用について—日の出町史編纂事業を通して—	安藤 福平 (広島県立文書館主任研究員)	評価選別論の課題
藤塚 巨人 (中央大学大学院)	天保期の飢饉史料—「飢饉録」を中心—	井上 聡子	ラベリングに用いられる接着剤の検討—CMC・MCの研究を通して—
宮永 廣美 (中央大学大学院)	律令国家の文書管理—中務省の機構を通して—	山口 信枝 (福岡県地域研究所研究員)	宮座文書の「御神体」化について—古宮八幡神社（福岡県）の文書を事例として—
岡部 泰子 (お茶の水女子大学大学院)	自治体史編纂と地域文書—千葉県夷隅郡大原町のケース—		
倉田 裕子 (昭和女子大学大学院)	記録と構造分析—竹田金春七郎氏綱による蔵書の記録を中心に—		

[短期研修課程]

名 前	レポート題目	名 前	レポート題目
鹿毛 敏夫 (大分県立先哲資料館主任研究員)	文書館展示のアイデンティティー「記録史料展示論」の整理と展望—	伊藤 邦恵 (秋田大学附属図書館参考調査係)	北方教育資料の情報サービスについて
久葉 裕可 (新居浜市広瀬歴史記念館管理係係長)	広瀬歴史記念館と新居浜市における史料管理の課題について	三浦 泰之 (北海道開拓記念館事業部展示課)	北海道拓殖銀行の文書保管体制と「史料室」—北海道拓殖銀行寄附資料の目録編成と解題執筆に向けて—
吉江 剛 (群馬県立文書館主任兼指導主事)	群馬県立文書館における公文書整理の現状と課題—保存利用のための整理について—	井口 はる菜 (奈良教育大学大学院研究生)	音楽（芸能）の「記録」
田村 日出男 (同志社大学同志社社史資料室事務長)	研究所における寄託・寄贈資料の整理について—「山室軍平関係」資料の整理過程を中心に—	行山 勲 (福岡県立図書館郷土資料課課長)	県立私設における歴史資料のあり方について
清水 恵枝	史料整理考—若狭国大飯郡川上村三谷家文書を通して—	小山 恭子 (福岡県地域研究所助手)	鎌田中家文書について
柏木 規子 (藤女子大学図書館司書)	史料の利用と普及における大学図書館の役割とアーキビストについて	崎原 盛俊 (岡山大学大学院教育学研究科)	「沖繩の歴史情報研究」ホームページに関する評価と問題点—主に利用者の立場から—
平田 有宏 (秋田県公文書館主事)	秋田県公文書館古文書課における史料の複製化の現状と今後の課題	渡辺 真紀 (仙台市博物館市史編纂室室長嘱託)	自治体史編さんにおける史料管理—公文書館のない街で記録史料が失われないために—
佐藤 史子 (秋田市立中央図書館明徳館主査)	秋田市立中央図書館明徳館における古文書の保存と利用の問題点	佐保 隆司 (立正佼成会文書館設立準備室)	文書館学からみた法語テープの収集・整理・保存・利用
小室 友嗣 (秋田市立中央図書館明徳館主査)	秋田市立図書館の「インターネット資料検索・予約システム」と保存資料（史料）のリンク構想について	阿田 幸子 (宇土市教育委員会市史編纂室室長主事)	行政文書の保存と現状について—宇土市史編さん室の取組み—
猿田 信子 (本荘市史編さん室主査)	「文書館」設立を実現するためには、何をすべきか	駒木 正清 (愛知県総務部県史編さん室主査)	県史編さんにおける資料調査及びその収集・整理の諸問題
工藤 英子 (能代市史編さん室主事)	能代市における史料管理の現状と課題	内山 俊身 (茨城県立歴史資料室首席研究員)	茨城県立歴史館のデータベースシステムと課題
山口 拓史 (名古屋大学史料室助手)	大学史料室における「行政文書」管理の可能性について	近藤 順子 (学習院大学史料館嘱託)	学習院大学史料館の役割—現状と今後の課題—
和田 秀作 (山口県文書館専門研究員)	大内氏の「殿中文庫」について—中世大名家の文書保管の一事例—	芳地 智子 (四国工業実業（株）文化事業課)	地方行政文書の保存利用とマイクロフィルム化について
上田 和夫 (花王株式会社社史編纂室主席ディレクター)	企業アーカイブ論序説—企業史料の収集・整理・保管・公開についての試論—	菅原 亜希子 (秋田県公文書館公文書課主事)	公文書館取蔵資料の保存方法について
茂角 征一 (神岡町教育委員会町史編纂調査員)	私設アーカイブス設立をめざして		

受贈図書 平成九年度 (二)

- 北長家騒記の研究〔角島一治〕
福井市史 通史編1、資料編1考古補遺、資料編6〔福井市〕
山梨県史 資料編14〔山梨県〕
富士吉田市史 資料編第5巻〔富士吉田市史編さん委員会〕
松本市史 第2、3巻〔松本市〕
長野市誌 第1、5、8、13巻〔長野市〕
坂下区誌〔坂下区誌編集特別委員会〕
豊科町誌 自然編、歴史編・民俗編・水利編、近現代編〔豊科町誌刊行会〔豊科町教育委員会〕〕
新修関市史 史料編古代・中世・近世1、近世2、4、近代・現代、通史編、考古・文化財編、民俗編〔関市〕
本阿弥新田史〔梅津町〕
美濃加茂市文化財調査集録 第1、2集〔美濃加茂市教育委員会〕
湖西市史 資料編3、7、9〔湖西市史編さん委員会〕
湖西市史総合年表 資料編別巻〔湖西市史編さん委員会〕
沼津市史 史料編近代1〔沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会〕
菊川町史 近世史料編〔菊川町史編さん委員会〕
- ん委員会
森町史 資料編4・5、通史編上巻〔森町史編さん委員会〕
金谷町史 資料編1古代中世〔金谷町史編さん委員会〕
相良町史 資料編古代・中世、近世(1)(2)、近現代、通史編上・下巻〔相良町〕
豊岡村史 資料編1近世、2近現代、3考古・民俗、通史編、別巻〔豊岡村史編さん委員会〕
浅羽町史 資料編2近世〔浅羽町史編さん委員会〕
裾野市史資料叢書 1、3〔裾野市史編さん専門委員会〕
磐田市資料叢書 第1集〔磐田市教育委員会〕
図書館叢書 7〔浜松市立図書館〕
沼津市歴史民俗資料館資料集〔14〕〔沼津市歴史民俗資料館〕
新修名古屋市史 第1・8巻〔新修名古屋市史編集委員会〕
大山市史 通史編上〔大山市〕
八開村史 資料編1村絵図集、民俗編〔八開村史編さん委員会〕
豊田史料叢書 松平太郎左衛門家文書1、猿投神社中世史料、廣見村史料1・2、松平太郎左衛門家文書、渡邊半藏家分限帳上・中・下、學母藩史・學母藩譜、内藤家文書 記録
- 1・編著1〔豊田史料叢書編集委員会〕
豊橋市史々々料叢書4〔豊橋市史編集委員会〕
田原藩日記 第10巻〔田原町〕
近世の瀬戸〔瀬戸市史編さん委員会〕
豊川用水と渥美農村〔愛知大学総合郷土研究所〕
あいちの民俗芸能〔愛知県教育委員会〕
花祭論〔愛知大学総合郷土研究所〕
三重県史 資料編中世1(上)、別編自然〔三重県〕
安濃町史 資料編〔安濃町史編集委員会〕
平松榮斎文書 6・8、16・20〔津市教育委員会〕
水口の伝承〔水口町教育委員会〕
長岡京市史 資料編1、3、本文編1・2、民俗編、建築・美術編〔長岡京市史編さん委員会〕
宮津市史 史料編第1・2・5巻〔宮津市史編さん委員会〕
新修亀岡市史 本文編第1巻、資料編第4巻〔亀岡市〕
和知町誌 第1巻〔和知町誌編さん委員会〕
和束町史 第1巻〔和束町町史編さん委員会〕
木津町の歴史〔木津町〕
藤井寺市史 第1巻〔藤井寺市史編さん委員会〕
- ん委員会
河内長野市史 第1巻(下)〔河内長野市史編修委員会〕
羽曳野市史 第1巻〔羽曳野市史編集委員会〕
摂津市史〔本文編〕、史料編4、別巻〔摂津市〕
門真市史 第3巻〔門真市〕
寝屋川市史 第2・8巻〔寝屋川市史編纂委員会〕
大阪市史史料 第48、50輯〔大阪市〕
郷土枚方の歴史〔枚方市史編纂委員会〕
〔寝屋川市〕新聞記事集成編 第1、4巻〔寝屋川市史編纂委員会〕
大谷女子大学資料館報告書 第36・37冊〔大谷女子大学資料館〕
加古川市史 第2・4・6上・6下巻〔加古川市〕
中世の家島〔真浦地区自治会〕
山崎の歴史〔山崎町教育委員会〕
三木市有宝蔵文書 第3巻〔三木郷土史の会〕
姫路市史資料叢書1〔2〕・〔3〕〔姫路市史編纂委員会〕
加古川市史史料 1、3〔加古川市〕
忠臣蔵 第6巻〔赤穂市総務部市史編さん室〕
赤穂義士論〔赤穂市総務部市史編さん室〕
海南市史 第4巻〔海南市史編さん委員会〕

員会)

日置川町誌 通史編上巻〔日置川町誌

編さん委員会)

美山村史 通史編上、下巻、史料編

〔美山村史編纂委員会)

串本町史 史料編、通史編〔串本町史

編さん委員会)

仁多町誌〔仁多町誌編纂委員会)

町誌隠岐西ノ島の今昔〔西ノ島町)

郷土斐川物語〔斐川町教育委員会)

建部町史 地区誌・史料編、民俗編、

通史編〔建部町)

鴨方町史 本編、史料編、民俗編〔鴨

方町史編纂委員会)

松江藩格式と職制〔中原健次)

古文書調査記録 第17・19集〔福山城

博物館友の会)

下関市史 市制施行―終戦、終戦―現

在、民俗編、資料編1・3・4、別

巻〔下関市)

豊浦町史 3考古編、民俗編〔豊浦町

史編纂委員会)

萩藩閩閩録 別巻〔山口県文書館)

阿波・近世文化の諸相〔大和武生先生

還暦記念論集刊行会)

増補改訂大洲市誌 上、下巻〔大洲市

誌編纂会)

福岡県史 近代史料編 嘉穂銀行〔2)、

近代史料編 労働乃九州〔1)〔西

日本文化協会)

久留米市史 第4〜13巻〔久留米市史

編さん委員会)

八女市史 上、下巻、年表編、資料編

〔八女市史編さん専門委員会)

小郡市史 第1巻〔小郡市史編集委員

会)

宇美町誌〔宇美町誌編纂委員会)

大木町誌〔大木町誌編さん委員会)

添田町史 上、下巻〔添田町史編纂委

員会)

増補改訂若屋町誌〔若屋町誌編集委員

会)

前原町誌〔前原町)

玄海町史話伝説〔玄海町)

郷土江浦町〔郷土江浦町編集部)

小森承之助日記 第3巻〔北九州市立

歴史博物館)

柳川歴史資料集成 第2集〔柳川市史

編集委員会)

九州文化史研究所史料集 1〔九州大

学九州文化史研究所)

佐賀県文化財年報 1、2〔佐賀県教

育庁文化財課)

平戸市史 自然・考古編〔平戸市史編

さん委員会)

多良見町郷土誌〔本編)、資・史料

編〔多良見町教育委員会)

新熊本市史 史料編第6巻、通史編第

8巻〔熊本市)

宮崎県史 史料編近現代5、史料編近

世6、通史編原始・古代〔1)〔宮

崎県)

宮崎県史叢書〔宮崎県)

都城市史 別編〔都城市史編さん委員

会)

始良町郷土誌〔始良町郷土誌改訂編さ

ん委員会)

富田碎花資料目録 第1〜3集〔若屋

市教育委員会)

歴史博物館整備に伴う収蔵資料目録

平成5・6、7年度〔香川県教育委

員会)

静岡県史 通史編2・4・6〔静岡県)

豊田町誌 資料集近世編〔I)〔II)

〔豊田町誌編纂委員会)

〔山崎町)文化財シリーズ 第2〜4

集〔山崎町教育委員会社会教育課)

受贈図書

平成一〇年度 (一)

北海道開拓記念館一括資料目録 第32

集〔北海道開拓記念館)

市立函館図書館郷土資料分類目録

第15分冊〔函館市立函館図書館)

北海道立文書館所蔵公文書件名目録

13〔北海道立文書館)

小牧市博物館所蔵資料目録 12〔苦

小牧市博物館)

吉田菊太郎資料目録 I、II〔幕別町

教育委員会)

〔北海道開拓記念館)常設展示資料目

録〔北海道開拓記念館)

市立函館図書館所蔵ロシア語資料目録

I〔函館日口交流史研究会)

青森県立郷土館収蔵資料目録 第8集

〔青森県立郷土館)

青森県史資料所在目録 第2集〔青森

県)

山本甚平家文書目録〔二戸市歴史民俗

資料館)

山形県立図書館郷土資料目録 7〔山

形県立図書館)

古文書近世史料目録 第11、20号〔山

形大学附属博物館)

山形県関係新聞記事索引 平成8、9

年版〔山形県立図書館)

山形県内出版物目録 平成8、9年度

〔山形県立図書館)

寒河江市史資料所在目録 第10〜12集

〔寒河江市教育委員会社会教育課)

〔山形県)下川区有文書〔下川区有文

書保存会)

〔山形)県人文庫目録〔山形県立図書

館)

〔福島県)歴史資料館収蔵資料目録

第29集〔財)福島県文化センター)

〔郡山市歴史資料館収蔵資料目録 第12

集〔郡山市教育委員会)

〔茨城県立歴史館)史料目録 42〔茨

城県立歴史館

茨城県立歴史館蔵書目録〔茨城県立歴史館〕

茨城大学附属図書館郷土史料目録 6

〔茨城大学附属図書館〕

茨城県立歴史館漢籍目録〔茨城県立歴史館〕

東海村諸家文書目録〔東海村〕

伊奈町史文書目録 第一～四集〔伊奈町教育委員会〕

茨城県行政文書目録(2)〔茨城県立歴史館〕

〔八千代町教育委員会〕 収蔵文書目録 第一～二集〔八千代町教育委員会〕

栃木県史料所在目録 第27集〔栃木県立文書館〕

栃木県立図書館クラシックレコード目録 第2巻〔栃木県立図書館音楽資料室〕

〔今市市〕 旧町村文書目録(1997年)〔今市市歴史民俗資料館〕

山崎コレクション目録〔群馬県立博物館〕

群馬県立文書館収蔵文書目録 16〔群馬県立文書館〕

群馬県行政文書件名目録 第10集〔群馬県立文書館〕

馬県立文書館

埼玉資料年報 昭和59年度〔埼玉県立浦和図書館〕

埼玉県立文書館収蔵文書目録 第37集

〔埼玉県立文書館〕

〔理化学研究所保存資料目録〕〔理化学研究所〕

〔埼玉県立文書館〕 収蔵地図目録 第3集〔埼玉県立文書館〕

上福岡市立歴史民俗資料館所蔵資料目録〔上福岡市立歴史民俗資料館〕

八潮の地域新聞目録(平成2～9年次)〔八潮市立資料館〕

八潮の地域新聞目録 1～7〔八潮市立資料館〕

八潮の行政文書目録 庶務・行政・財務編、税務・戸籍・土地・教育編〔八潮市役所〕

八潮の諸家文書目録〔八潮市役所〕

坂戸市郷土歴史資料 第五集〔坂戸市教育委員会〕

成田山仏教図書館新着図書目録 第83号〔成田山仏教図書館〕

浦安市に関する新聞記事索引 累積索引版(1983年～1987年、1988年～1992年)〔浦安市立図書館〕

浦安市に関する新聞記事索引 1993年～1995年〔浦安市立図書館〕

千葉県印旛郡栄町史資料目録 1〔栄町〕

松戸市立博物館歴史資料集 1、2

〔松戸市立博物館〕

憲政資料目録 第一九〔国立国会図書館〕

館

明治大学刑事事博物館目録 第59、60号

〔明治大学刑事博物館〕

明治大学所蔵内藤家文書増補・追加目録(6)・(7)〔明治大学刑事博物館〕

学習院大学史料館所蔵史料目録 第14、15号〔学習院大学史料館〕

塩業関係資料目録 第13集〔財団法人塩業センター〕〔塩業資料室〕

公文類聚目録 第十三〔国立公文書館〕

二松学舎大学附属図書館蔵逐次刊行物目録〔二松学舎大学附属図書館〕

八王子市郷土資料館収蔵古文書目録〔八王子市教育委員会〕

東京家政学院大学図書館報別冊 食関係所蔵論文目録(稿)、女性関係所蔵論文目録(稿)〔東京家政学院大学図書館〕

大田区立郷土博物館収蔵品目録〔大田区立郷土博物館〕

東京都公文書館所蔵行政文書目録 学事編明治39、40年〔東京都公文書館〕

坂井修一氏所蔵文書目録 NO.5〔森安彦〕

東京都立中央図書館蔵木子文庫目録 第1巻〔東京都立中央図書館〕

三井文庫所蔵史料主要帳簿目録〔京本店等作成分〕〔財団法人三井文庫〕

東京資料目録―新聞・雑誌―〔東京都

立中央図書館

東京都立中央図書館朝鮮語図書目録補遺版〔東京都立中央図書館〕

東京大学史料編纂所写真帳目録〔索引〕〔東京大学出版会〕

〔東京女子大学図書館〕 増加図書目録 速報〔東京女子大学図書館〕

府中市内家わけ古文書目録 1〔府中市教育委員会〕

摺物総合編年目録(稿)〔東京大学史料編纂所〕

武蔵国大里郡村岡村小林政秋家所蔵文書目録〔立正大学古文書研究会〕

金融経済研究所蔵書目録〔財団法人金融経済研究所〕

土屋家旧蔵文書目録〔東京大学大学院経済学研究科・経済学部図書館文書室〕

吉井始子寄贈図書目録〔東京家政学院大学附属図書館〕

近世・多摩地域の文献目録〔法政大学大学院日本史学専攻室〕

東京国立文化財研究所蔵X線フィルム目録 I〔東京国立文化財研究所〕

三鷹吉野泰平家文書目録 一、二、三

鷹市教育委員会

狩野派研究資料目録〔江戸東京博物館〕

神奈川県関係新聞記事索引 第35集

〔神奈川県立図書館〕

茅ヶ崎市史資料所在目録(11)〔茅ヶ

崎市

神奈川県古文書資料所在目録 第1、

3、5、12、16集〔神奈川県立文化

資料館〕

神奈川県古文書資料所在目録 第17、

20集〔神奈川県立公文書館〕

寒川町史資料所在目録 第13集〔寒川

町企画部町史編さん課〕

神奈川県立文化資料館蔵書目録 第4

集〔神奈川県立文化資料館〕

横浜市史資料所在目録 近・現代第7

集〔横浜市〕

神奈川県立図書館・神奈川県立川崎図

書館増加図書著者・書名索引 19

96、1997〔神奈川県立図書館〕

海老名市史資料所在目録 第10、11集

〔海老名市〕

綾瀬市史資料所在目録稿 第2、3集

〔綾瀬市〕

綾瀬市史新聞記事目録 第2集〔綾瀬

市〕

藤沢市史新聞記事目録〔藤沢市文書館〕

馬の博物館古文書分類目録 1〔財団

法人馬事文化財団〕

神奈川県立公文書館資料所蔵目録 第

1集〔神奈川県立公文書館〕

新潟県公文書簿冊目録 第4集〔新潟

県立文書館〕

田上町郷土歴史資料目録集 近世・近

現代〔田上町〕

山之内文庫文書目録〔塩沢町教育委員

会〕

新潟県立図書館所蔵文書目録〔塩沢町

関係〕〔塩沢町教育委員会〕

史料目録 第一、八集〔湯沢町教育委

員会〕

史料目録 第九、十五集〔湯沢町教育

委員会町史編さん室〕

環日本海経済交流に関する文献目録

〔第7輯〕〔富山大学日本海経済研究

所〕

〔石川県立歴史博物館〕蔵品目録〔石

川県立歴史博物館〕

〔輪島市〕深見区有文書目録〔輪島市

教育委員会〕

能登輪島住吉神社文書目録〔輪島市教

育委員会〕

山梨県立図書館所蔵古文書目録 9

〔山梨県立図書館〕

五郎兵衛新田古文書目録 第7集〔浅

科村教育委員会〕

長野県行政文書目録 行政簿冊2〔長

野県立歴史館〕

長野県立歴史館収蔵文書目録 1〔長

野県立歴史館〕

真田宝物館収蔵品目録 1〔松代藩文

化施設管理事務所〕

大垣市立図書館郷土資料目録 第17集

〔大垣市役所〕

岐阜歴史資料館〕

岐阜県行政文書目録 昭和50年度編

〔1〕、〔2〕〔岐阜県歴史資料館〕

岐阜県史料調査報告書 第18号〔岐阜

県歴史資料館〕

住香草文庫目録〔高山市郷土館〕

雲橋社関係資料目録〔高山市郷土館〕

角竹郷土史料文庫目録 上、下巻〔高

山市郷土館〕

沼津市明治史料館史料目録 21、22

〔沼津市明治史料館〕

袋井市郷土史料目録 第8集〔袋井市

教育委員会〕

静岡県立中央図書館蔵書書名索引 1

987、4-1997、3〔静岡県

立中央図書館〕

静岡県立中央図書館外国語図書目録

〔静岡県立中央図書館〕

新井の歴史資料三題〔伊東市立伊東図

書館〕

古橋家文書目録 第一集〔財団法人古

橋会〕

名古屋女子大学所蔵芝居番付資料目録

〔名古屋女子大学図書館〕

下郷家文書目録〔名古屋市総務局〕

伊藤圭介関係資料指定目録〔名古屋市

教育委員会〕

三重県史資料調査報告書 X II、別冊

〔三重県生活文化部学事課〕

戦後五〇年記念「戦争資料展」資料目

録〔上野市役所総務部庶務課市史編

さん室〕

上野市安場区・区有文書目録〔上野市

役所総務部庶務課市史編さん室〕

上野市東谷区・区有文書目録〔上野市

役所総務部庶務課市史編さん室〕

紺屋町所蔵文書目録〔上野市役所総務

部庶務課市史編さん室〕

上野市印代区・区有文書目録〔上野市

役所総務部市史編さん室〕

藤堂藩城代家老日誌永保記事略人名索

引〔上野市役所総務部庶務課市史編

さん室〕

上野市立図書館所蔵拾貳郷井堰関係文

書目録〔上野市役所総務部庶務課市

史編さん室〕

東条区・区有文書目録〔上野市役所総

務部庶務課市史編さん室〕

上野市山神区・区有文書目録〔上野市

役所総務部庶務課市史編さん室〕

上野町日記目録・人名索引〔上野市役

所総務部庶務課市史編さん室〕

上野市佐那具区・区有文書目録〔上野

市役所総務部庶務課市史編さん室〕

上野市服部区・区有文書目録〔上野市

役所総務部庶務課市史編さん室〕

坂之下区・区有文書目録〔上野市役所

総務部庶務課市史編さん室〕

一之宮区・区有文書目録〔上野市役所

- 「廳事類編」・人名索引〔上野市役所
 総務部庶務課市史編さん室〕
 西条区・区有文書目録〔上野市役所総
 務部庶務課市史編さん室〕
 千歳区・区有文書目録〔上野市役所総
 務部庶務課市史編さん室〕
 外山区・区有文書目録〔上野市役所総
 務部庶務課市史編さん室〕
 古郡区・区有文書目録〔上野市役所総
 務部庶務課市史編さん室〕
 〔思川記―思川附・富家役人姓名〕・
 人名索引〔上野市役所総務部庶務課
 市史編さん室〕
 葛蒲他・古山界外区有文書目録〔上
 野市役所総務部庶務課市史編さん
 室〕
 上野市市史編さん室架蔵近代伊賀関係
 新聞雑誌目録〔上野市役所総務部庶
 務課市史編さん室〕
 上野市蔵繩手区・区有文書目録〔上野
 市役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市高山区・区有文書目録〔上野市
 役所総務部庶務課市史編さん室〕
 蓮池区・区有文書目録〔上野市役所総
 務部庶務課市史編さん室〕
 上野市比自岐区・区有文書目録〔上野
 市役所総務部庶務課市史編さん室〕
 江戸期地誌に現れる伊賀地域の寺院
 〔上野市役所総務部庶務課市史編さん
 室〕
- 上野市喰代区・区有文書目録〔上野市
 役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市上友生区・区有文書目録〔上野
 市役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市中友生区・区有文書目録〔上野
 市役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市下友生区・区有文書目録〔上野
 市役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市友生界外区・区有文書目録〔上
 野市役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市魚町所蔵文書目録〔上野市役所
 総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市摺見区・区有文書目録〔上野市
 役所総務部庶務課市史編さん室〕
 上野市岡波区・区有文書目録〔上野市
 役所総務部庶務課市史編さん室〕
 伊勢新聞四日市関係記事索引 第1〕
 5集〔四日市市役所市史編さん室〕
 中日新聞四日市関係記事索引 第1〕
 3―2集〔四日市市役所市史編さん
 室〕
 朝日新聞四日市関係記事索引〔正〕
 (補巻)〔四日市市役所市史編さん室〕
 四日市市役所本庁所蔵公文書館史料目
 録(第3集の1〕4)〔四日市市役
 所市史編さん室〕
 四日市市役所本庁所蔵公文書館史料目
 録〔四日市市役所市史編さん室〕
 四日市市議会各委員会主要議事内容一
 覧 第1〕2集〔四日市市役所市史
 編さん室〕
 四日市市地区市民センター所蔵公文書
 史料目録 その1〕2)〔四日市市役
 所市史編さん室〕
 四日市市立図書館所蔵四日市関係時効
 収載資料目録〔四日市市総務都市史
 編さん室〕
 市史編さん室所蔵四日市関係資料目録
 第1、2分冊〔四日市市総務都市史
 編さん室〕
 四日市市公報主要目次 昭和20年10月
 〕平成元年3月〔四日市市役所市史
 編さん室〕
 広報よっかいち主要記事索引 昭和24
 年6月(創刊)〕昭和51年3月〔四
 日市市役所市史編さん室〕
 吉村家文書目録(近・現代史料)〔四
 日市市役所市史編さん室〕
 堀木博家文書目録〔四日市市役所市史
 編さん室〕
 坂理家文書目録〔四日市市役所市史編
 さん室〕
 古谷幸三家文書目録〔四日市市役所市
 史編さん室〕
 永田貞好家文書目録〔四日市市役所市
 史編さん室〕
 丹波家文書目録〔四日市市役所市史編
 さん室〕
 田中真司家文書目録〔四日市市役所市
 史編さん室〕
 下田家文書目録〔四日市市役所市史編
 さん室〕
 沢井余志郎氏所蔵資料目録〔四日市市
 役所市史編さん室〕
 河村郁雄家文書目録〔四日市市役所市
 史編さん室〕
 稲葉元孝家文書目録(正編)、(追補版)
 〔四日市市役所市史編さん室〕
 伊藤伝七家文書目録(正)、追補〔四
 日市市役所市史編さん室〕
 寺方区有文書〔目録〕〔四日市市役所
 市史編さん室〕
 尾平町有文書目録〔四日市市役所市史
 編さん室〕
 伊坂町有文書目録〔四日市市役所市史
 編さん室〕
 鶴町有文書目録〔四日市市役所市史編
 さん室〕
 四日市市史近世部会収録史料目録〔近・
 現代分〕その1、2〔四日市市役所
 市史編さん室〕
 小林庄助家文書目録〔四日市市役所市
 史編さん室〕
 森茂男家文書目録〔四日市市役所市史
 編さん室〕
 文書類及び資料集等の資料一覧・資料
 リスト集成(その1〕4)〔四日市
 市役所市史編さん室〕
 内藤壽夫氏所蔵文書目録〔四日市市役
 所市史編さん室〕

川喜田家歴史資料目録〔正〕、書状一覽〔津市教育委員会〕

内藤壽夫氏所蔵文書目録〔四日市市役所市史編さん室〕

市PTA関係文書目録〔四日市市役所市史編さん室〕

天春元太郎家文書目録〔四日市市役所市史編さん室〕

滋賀大学経済学部附属史料館所蔵史料目録 第四十七集〔滋賀大学経済学部附属史料館〕

滋賀県刊行物目録 NO.2、3、5、7〔滋賀県立図書館・滋賀資料室〕

彦根城博物館古文書調査報告書 IV、V〔彦根城博物館〕

安土城・織田信長関連文書調査報告 5〔滋賀県教育委員会〕

安土城・織田信長関連文書調査報告 6〔滋賀県安土城郭調査研究所〕

向日市古文書調査報告書 第二、三、五集〔向日市文化資料館〕

土佐派絵画資料目録〔七〕〔京都市立芸術大学芸術教育振興協会〕

丹波篠山藩〔青山家〕古文書目録〔中野卓郎〕

京都大学大学院文学研究科地理学教室 関係古地図目録〔京都大学大学院文学研究科地理学教室〕

島田市郎家文書目録〔八幡市教育委員会〕

高槻市史史料目録 第二〇号〔高槻市役所〕

大阪商業大学比較地域研究所資料目録 第六集〔大阪商業大学比較地域研究所〕

大阪府行政資料・刊行物目録 第6集〔大阪府公文書館〕

大阪狭山市史編さん資料目録 2、9〔大阪狭山市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課市史編さん室〕

甲斐国巨摩郡河原部村小林家文書〔布屋文庫〕〔財〕阪急学園池田文庫

小林茂文庫目録〔大阪人権博物館〕

難波家〔平野屋〕史料目録〔和泉書院〕

蝸牛廬文庫目録 一、三〔池田市立歴史民俗資料館〕

黒松家資料目録一、二〔池田市立歴史民俗資料館〕

檀悟廬文庫目録〔池田市立歴史民俗資料館〕

木部村関係資料目録〔池田市立歴史民俗資料館〕

姫路市史編集資料目録集 49〔姫路市教育委員会事務局市史編集室〕

神戸市立博物館蔵品目録 考古・歴史の部14、美術の部14〔神戸市立博物館〕

関西学院大学図書館所蔵史料目録 第三輯〔関西学院大学図書館〕

淡路文化史料館収蔵史料目録 第十四、

十五集〔洲本市立淡路文化史料館〕

〔東浦町〕郷土資料目録〔東浦町史編集事務局〕

龍野文庫図書目録〔龍野市歴史文化資料館〕

神戸市文献史料 第二、十七卷〔神戸市教育委員会〕

天理図書館叢書 第43輯〔天理大学出版部〕

〔和歌山県〕収蔵史料目録 二〔和歌山県〕

〔鳥取県〕行政資料目録 追録第6号〔鳥取県立公文書館〕

鳥取県公文書簿冊目録 第2集〔鳥取県立公文書館〕

長船町史・資料目録 第1、3集〔長船町〕

広島市公文書館所蔵資料目録 第22、23集〔広島市公文書館〕

広島市行政資料目録 市政資料編追録 12〔広島市公文書館〕

広島県立文書館収蔵文書目録 第5集〔広島県立文書館〕

山口県文書館地方調査員調査報告 25〔山口県文書館〕

山口県文書館蔵行政資料目録 4、5〔山口県文書館〕

清末毛利家文書目録〔山口県文書館〕

阿南市史料目録〔阿南市史編さん室〕

蜂須賀家文書賞罰帳簿冊目録〔徳島県立文書館〕

立文書館 歴史博物館整備に伴う収蔵資料目録 平成8年度〔香川県教育委員会〕

香川大学経済研究所所蔵塩業組合関係資料目録〔香川大学経済研究所〕

〔福岡市博物館〕収蔵品目録 12〔福岡市博物館〕

福岡県公共図書館郷土資料総合目録 追録9、10〔福岡県立図書館〕

福岡市公文書資料目録 第1、2集〔福岡市総合図書館〕

古文書資料目録 一、三〔福岡市総合図書館〕

収蔵品目録〔第1、2集〕〔佐賀市教育委員会〕

熊本県立図書館蔵古文書〔複製〕目録 1987年、1995年〔熊本県立図書館〕

〔薩摩国山川郡日高家古文書・古記録〔概要目次〕〕〔谷迫ハルエ〕

琉球水道公社文書目録〔沖縄県公文書館〕

米国民政府ニュース・リリース及び関連資料目録〔沖縄県公文書館〕

GHQ/SCAP文書目録―沖縄関係資料―〔沖縄県公文書館〕

〔国立中央図書館台湾分館〕館蔵琉球資料目録〔概要目次〕〔国立中央図書館台湾分館〕

岩田書院ブックレット〔文書館シリーズ〕

ズ 3 (安藤正人)

日本外交文書 昭和期2第1部第2卷

(外務省)

幕藩領主文書と村方・町方文書群の発生・展開並びに伝存に關する史料学的研究 (森安彦)

浅草寺日記 第19卷 (浅草寺)

可睡齋史料集 第5卷 (可睡齋史料集編纂委員会)

網干善教先生古希記念考古学論集 上卷、下卷 (網干善教先生古希記念論文集刊行会)

記録史料学と現代 (安藤正人)

北海道立文書館史料集 第13 (北海道立文書館)

竹四郎日誌 按西扈從 (1) (3) (松浦一郎)

竹四郎日誌 按北扈從 (松浦一郎)

北海道開拓記念館研究報告 第15号 (北海道開拓記念館)

日本近世のアイヌ社会 (岩崎奈緒子)

「北の歴史・文化交流研究事業」中間報告 1993年度、1995年度 (北海道開拓記念館)

釧路叢書 33卷 (釧路市)

釧路新書 23 (釧路古文書研究会、釧路市史編さん事務局)

早来町史 (続巻)、(続巻年表) (早来町)

函館市史 銭亀沢編 (函館市史編さん

室)

松前町史 年表 (松前町)

新青森市史 別編I (青森市)

五所川原市史 通史編1、2 (五所川原市)

青森県議会史 [15] (青森県議会)

青森県立郷土館調査報告 第39、41、42集 (青森県立郷土館)

小泊村史 中巻、下巻 (小泊村)

胆沢町古文書資料集 第4、5集 (胆沢町文化財調査委員会)

盛岡藩雜書 第10卷 (盛岡市教育委員会)

大籠の歴史と文化財 (藤沢町)

石巻の歴史 第2巻通史編 (下の1)、(下の2) (石巻市史編さん委員会)

仙台市史 特別編5、6 (仙台市)

東北歴史資料館資料集 38 (東北歴史資料館)

能代市史 資料編 古代・中世一、中世二 (能代市史編さん委員会)

秋田市史 第8、10巻 (秋田市)

鹿角市史資料編 第29集 (鹿角市役所)

渋江和光日記 第3、4巻 (秋田県公文書館)

菊地文書 (二ツ井町)

能代市史資料 第26号 (能代市史編さん室)

米沢市史 資料編5 (米沢市)

真室川町史 (真室川町史編纂委員会)

郷土資料叢書 第23輯 (新庄市立図書館)

寒河江市史編纂叢書 第57集 (寒河江市史編纂委員会)

米沢市史編纂資料 第28号 (米沢市史編さん委員会)

新庄市史編纂資料集 第27、28号 (山形県新庄市教育委員会)

大石田町立歴史民俗資料館資料集 第1、3集 (大石田町教育委員会)

南郷村史 第5巻 (南郷村)

伊達町史 第2、7巻 (伊達町)

伊達町史資料叢書 第1、8集 (伊達町編纂委員会)

下郷町史資料集 第6、17集 (下郷町町史編さん委員会)

水戸市史 下巻 (3) (水戸市役所)

鹿島町史 第5巻 (鹿島町史編さん委員会)

五所の歴史 創刊、2号 (明神郷土史会)

東海村史 通史編、民俗編 (東海村)

古河史道遥 (伊藤巖)

棹ヶ島の尊徳仕法をみつめて (菊池織之助)

ふじしろの石仏 (藤代町教育委員会)

茨城県教育財団文化財調査報告 第24、25、27、34、37、70、72、76、79、82、84、112、114、137集 (茨城県教育財団)

いまいち市史 史料編・近現代IV (今市市)

南河内町史 通史編自然・考古、古代・中世 (南河内町)

群馬県の祈禱者 (星野正幸)

新編高崎市史 資料編10 (高崎市)

行幸田百年の歩み (行幸田百年記念事業実行委員会)

高崎庶民誌 (星野正幸)

埼玉人物事典 (埼玉県教育委員会)

三郷市史 第7巻 (三郷市)

上尾市史 第5巻資料編5 (上尾市)

幸手市史 近世資料編II、近・現代資料編I (幸手市教育委員会)

上福岡市史 資料編第2、3、5巻 (上福岡市)

埼玉県史料叢書 4 (埼玉県教育委員会)

所沢市史調査資料 37 (所沢市文化財保護課)

戸田市史調査報告書 第15集 (戸田市)

鳩ヶ谷市の古文書 第22集 (鳩ヶ谷市教育委員会)

伊奈町史資料調査報告書 第14集 (伊奈町教育委員会)

都幾川村史資料 2 (都幾川村)

川口市古文書解読集 3、4 (川口市総務課市史編さん係)

(以下次号)

彙報

○史料の収集

本年度はマイクロフィルムにより、飛騨国大野郡高山町会所・戸長役場文書、伊豆国田方郡葦山川家文書、山城国京都小堀家文書を収集した。概要は本号「新収史料紹介」を〔平成11年度分―館報72〕

○所蔵史料保存のための複製

所蔵史料の利用による劣化・損傷の予防し、よりよい保存管理と利用の効率化を図るため、当館所蔵史料の複製化事業を進めた。今年度は、白館原本「日本実業史博物館準備室旧蔵史料」の内、錦絵三八〇点、写真七〇八点を行った。

○史料の所在調査

本年度は、信濃国高井郡東江部村山田家文書、信濃国佐久郡下海瀬村土屋家文書について実施した。概要は本号「史料所在調査報告」を参照。○史料館所蔵史料目録作成のための調査

史料目録七〇集作成のため、松本市文書館、山下今井村地域を対象に調査を行った（八月七日～一日、高木俊輔）。

史料目録七一集作成のため神戸

家・名古屋市立鶴舞図書館を対象に調査を行った。（二月三日～五日、渡辺浩一）

○史料保存利用機関事務連絡および調査

広島県立文書館、広島県立図書館で実施した（二月二〇日・二一日、吉岡栄美子）。

香川県立文書館で実施した（三月二一日・二二日、吉岡栄美子）。

○運営協議会と評議員会の開催

一九九九年六月二四日、九月三日、二〇〇〇年一月二七日、二月二九日に運営協議会が、一九九九年七月一日、二〇〇〇年三月一三日に評議員会がそれぞれ開催され、管理運営について協議ないし評議された。

○出版物の刊行

1 「信濃国松代真田家中依田家文書（その一）」（担当山田哲好）を「史料館所蔵史料目録」第六九集として、「信濃国筑摩郡下今井村桃井家文書」（担当高木俊輔）を同じく第七〇集としてそれぞれ刊行した。

2 「史料館研究紀要」第三二号を刊行した。内容は次の通り。

・徳川家康の起請文 千々和 到
・七ヶ岡地頭職「辞止」をめぐる鎌倉幕府と後白河院―関連史料の吟味を中心として― 松島 周一

・幕末における郡中取締役の成立と地域―信濃国佐久郡宿岩村阿部氏の活動― 山崎 圭

・「御内書」の史料学的研究の試み 福田千鶴

・近世書籍史料論に関する覚書 藤實久美子

・史料整理論の再考―近現代史料整理ノートⅢ― 鈴江 英一

3 「史料館報」第七一号および第七二号（本号）を刊行した。なお、次号は本年九月刊行予定。

4 史料叢書第四巻「戸長役場の史料」（担当井木幸男、名著出版）を刊行した。

5 原典講読セミナー4「江戸時代の漁場争い―松江藩郡奉行所文書から―」（安藤正人著、臨川書店）を刊行した。

6 「日本近世史料学研究」資料空間論への旅立ち―（北海道大学図書刊行会）を日本学術振興会科学研究費補助金「研究成果公開促進費」により刊行した。

○一九九九年度史料管理学研修会修了証書の授与

所定の教科目を履修し、レポート審査に合格した受講者に修了証書を授与した。詳細は本号「一九九九年度史料管理学研修会修了者一覧」を参照。

照。

○「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」の研究会
右の研究について、一九九九年一月七・八日、二月二四日、二〇〇〇年二月四日、三月九・一〇日に部会長会議・編集会議および研究会を当館で開催した。

○所蔵史料の保存のための複製化
所蔵史料の利用による劣化・損傷の予防し、よりよい保存管理と利用の効率化を図るため、当館所蔵史料の複製化事業を進めた。今年度は、「日本実業史博物館準備室旧蔵史料」の内、錦絵三八〇点、写真七〇八点を行った。

○館内研究会

「一九六回」一〇月五・六日

「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム開発に関する研究」第一回研究会（本号三頁参照）

「一九七回」一〇月七・八日

「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第一回部会長会議

「一九八回」一〇月一九日

「信濃国松代真田家中依田家文書目録（第六九集）」の目録編成について

「信濃国筑摩郡下今井村桃井家文書目録」

山田 哲好

山田 哲好

山田 哲好

山田 哲好

山田 哲好

録(第七〇集)の日録編成について
高木 俊輔

「一九九回」一月二五日

「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」(科学研究費基盤研究(A)研究会)

研究会

「二〇〇回」一月三〇日

「史料情報の電子化に関する検討会」

情報システム実行プロジェクト委員会

「二〇一回」一月二二・二三日

「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム開発に関する研究」第二回研究会

「二〇二回」一月二四日

「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第二回部会長会議

「二〇三回」一月六日

「史料管理学研究会改革案」検討会―史料管理学研修会検討プロジェクト委員会

「二〇四回」一月七日

古文書学的研究報告「仏堂落書学事始め」京都大学工学部教授 山岸常人

「二〇五回」一月二六日

「国文学研究資料館史料館とアーキビスト養成問題について」大友一雄・丑木幸男

「二〇六回」二月四日

「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第三回部会長会議

「二〇七回」二月一七日

韓日比較史料学研究会 テーマ「歴史編纂の比較史」―「朝鮮王朝実録の編纂について」崔 承熙(ソウル大学教授)

「徳川実紀の編纂について」藤實久美子

「二〇八回」三月九・一〇日

「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」第一回研究会

○大学院教育協力(特別共同利用研究員)

通年

青木祐一(千葉大学大学院)

西 光三(立正大学大学院)

○海外出張

1 科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」のため、以下の日程で調査を行った。

・高木俊輔 五月二九日〜六月一二日

(オランダ、ドイツ)

・山崎 圭 五月三一日〜六月一二日

(オランダ、ドイツ)

・大友一雄 八月三〇日〜九月九日

(オランダ、スペイン)

・鈴江英一 八月三〇日〜九月六日

(オランダ)

・青木 睦 二月一三日〜二七日(イギリス、ドイツ、オランダ、ベルギー)

1)

2 安藤正人は、①科学研究費補助金基盤研究(A)(2)「第二次世界大戦期アジアにおける文書記録史料の略奪・廃棄・流出等に関する調査」のため、五月二九日〜六月一二日(オランダ、ドイツ)、一月一〇日〜二〇日(イギリス、イスラエル)、

二月二七日〜三月四日(中国)、②

日本学術振興会特定国派遣研究者助成「第二次世界大戦時及び戦後の日本植民地及び占領地における記録史料の取り扱いについて」の調査のため、一月二八日〜二月一八日

(マレーシア)の日程で調査を行った。

3 福田千鶴は、稲盛財団助成金により、三月八日〜一四日、米国でアジア研究学会大会に参加し、研究活動と国際交流を行った。

○史料館研究・教育活動一覽(一九九九年発表のもの。ただし大学出講は一九九九年度)

高木俊輔

・小論文「信濃と幕末の国学―「復古」と「維新」―(八十二文化財団

「地域文化」五一号、二月三〇日)

・講演「明治初年の志士群像について」(幕末明治民衆運動史研究会大会、一月二七日、東京都文京区民センター)

・講演「近世の農民日記を読む」(埼玉県古文書解読講習会、埼玉県民活動総合センター、八月二六日、埼玉県伊奈町)

・講演「『夜明け前』にみる木曾路馬籠の幕末維新」(二月二一日、品川区品川歴史館)

・書評「ぐんまの古文書」(群馬文化)二六〇号、群馬県地域文化研究協議会、一〇月)

・大学出講 日本女子大学大学院文学研究科「史料学研究」

鈴江英一

・編著「町村制の発足(史料叢書第三卷)」(国文学研究資料館史料館編、名著出版、三月)

・論文「切支丹禁制高札撤去後の禁教政策」(『キリスト教史学』第五三集、七月)

・聞き取り記録「松浦家文書の戦時疎開について」(『史料館研究紀要』第三〇号、三月)

・報告「函館・仙台正教徒捕縛事件の全体像―寛典の処置の論理と禁教政策への影響―」(キリスト教史学会、九月一八日)

・講義「歴史資料としての公文書保存
—公文書のライフサイクルを考える
—」(埼玉県立文書館文書史料 取
扱講習会、二月二日、浦和市)

・講演「文書はどのようにして、史料
になるか」(小山市文書保存講演
会、栃木県小山市、二月一八日)

・講義「資料整理論」(国立公文書館
公文書館専門職員養成課程、九月三
〇日、東京都)

山田哲好

・報告「史料館における史料所在情報
データベースの作成」(日本学術会
議五〇周年記念シンポジウム、三月
一〇日、東京大学史料編纂所)

・報告「史料所在情報のWeb上での
公開をめぐる」(全史料協関東部
会月例研究会、六月一日、国文学
研究資料館)

・講演「真田家文書について」(松代
文化財ボランティア養成講座、六月
二〇日、長野市真田宝物館)

・大学出講 立正大学 博物館実習
(記録史料の調査・収集・整理・保
存・管理と利用)

福田千鶴

・目録「史料館所蔵史料目録 第六八
集 山城国諸家文書目録(その二)」
(史料館、三月)

・著書「幕藩制的秩序と御家騒動」

(校倉書房、二月)

・共著「宗像市史」通史編第二巻 古
代・中世・近世(ぎょうせい、三月)
・共編「上越市史」別編5 藩政資料
一(ぎょうせい、三月)

・論文「近世地方知行制の存続意義に
ついて—福岡藩を事例に—」(近世
社会と知行制) 思文閣出版、五月)

・新刊紹介「児玉幸多編『訳注日本史
料御当家人年録』」(『日本史研究』
四三八号、二月)

・報告書「江戸記録一覧(稿)」(文部
省科学研究費補助金・特定領域研究
報告書「諸藩江戸屋敷のネットワー
ク—大名文書複合化の研究」代表武
井協三、三月)

・シンポジウム報告「幕藩体制から見
た織豊期尾張」(三月一四日、於名
古屋大学、「織田・豊臣政権と尾張」
報告記録「幕藩政治史から見た尾張
徳川家の創出」(『織豊期研究』創刊
号、一一月)

・研究助成 科学研究費補助金基盤研
究(C)「大名家文書の構造と機能
に関する基盤的研究—津軽家文書の
分析を中心に—」

丑木幸男

・論文「新井豪と良民党計画」(『ぐん
ま史料研究』一一二号、二月一三日)

・論文「高津渡の中学生日記」(『群馬

歴史民俗』第二〇号、三月二二日)

・紹介「群馬県地方史研究の動向」
(『信濃』五九三号、信濃史学会、六
月一日)

・編著「上野国神社明細帳」第一巻
(東群馬郡)(群馬県文化事業振興会、
九月三〇日)

・論文「戸長役場史料と国民国家」
(歴史人類学会編「国民国家とアー
カイブズ」、一一月二五日)

・編著「高津仲次郎日記」第二巻(群
馬県文化事業振興会、一一月三〇日)

・講演「田島弥平のミラノ通信」(群
馬県高校歴史部会、一月二八日)

・報告「在欧日本史料調査報告」(東
京外国語大学アジアアフリカ研究所、
三月二〇日)

・著書「近世日本の都市と民衆—住民
結合と序列意識—」(吉川弘文館、一
一月)

・学会動向「(近世史料学)」(『史学雑
誌』一〇八—五(回顧と展望)、五
月)

・報告「近世都市の分節的構造と序列
—仙台を事例として—」(科学研究
費「日本型伝統都市の社会」空間に
関する基盤的研究」の研究会、箱根、
三月一日)

・報告「近世都市における文書保管と

文書類型」(記録史料の情報資源化
と史料管理学の体系化に関する研究
会、史料館、二月四日)

・大学院演習「近世都市史の研究」
(国文学研究資料館特別共同利用研
究員制度)

・大学出講 一橋大学 一般教育科目
「古文書(近世)」

・論文「史料収蔵環境に対する保存箱
の効果」(共同執筆「史料館研究紀
要」第三〇号、三月)

・報告書「史料に用いられた紙資料群
の科学的類別に関する研究」(科学
研究費成果報告書、三月)

・報告書「歴史史料の劣化評価への化
学発光の応用研究」(科学研究費成
果報告書、編集・分担執筆、三月)

・講義録「被災した資料をどう救う
か—応急対応の方法—」(平成一〇
年度防災研修報告書 資料が燃え
た!その時、あなたは—火災実験と
応急対応— 全史料協防災委員会編
集・発行、一〇月)

・講義「被災した資料をどう救うか—
応急対応の方法—」(全史料協防災
委員会防災研修、一月二九日)

・報告「記録史料保存と文化財保存—
相互の研究協力のあり方と今後の展
開—」(東京国立文化財研究所・

「文化財施設の保存環境に関する研究」連絡協議会、二月一九日

講演「記録資料の保存—まず何から取組めばよいか—」(第2回資料保存講演会「県内における資料保存の現状と課題を考える」沖縄県立公文書館主催、三月一日)

講演「災害と資料保存の最前線—まず何をすべきか—」(特別講演会・高知市立自由民権記念館主催、三月二〇日)

報告「史料に用いられた紙資料群の科学的類別に関する研究」(和紙研究会、四月一七日)

報告「IPMと収蔵庫のクリーニングについて—文書館・公文書館・史料館など紙史料収蔵を主とする施設の問題点—」(東京国立文化財研究所・特別研究「無公害な文化財生物劣化防除法の研究」、五月七日)

講演「記録史料の保存と修復」(松本市文書館主催、七月二四日)

講演「文書史料保存の理論と実務」
「文書史料の保存・修復の実際」(第二回史料管理セミナー、企業史料協議会主催、九月二一・二二日)

報告「台湾九・二一集集大地震における記録史料・歴史的文化遺産の被災状況」(東京国立文化財研究所・第一回台湾中部地震被災文化財研究

会、一〇月二三日)

報告「台湾九・二一集集大地震における記録史料・歴史的文化遺産の被災状況」(記録史料の保存を考える会、一一月二六日)

講義「記録史料の保存と修復」(北海道立アイヌ民族文化センター主催、二月一〇日)

大学出講 千葉大学文学部史学科「文書館学a」、立教大学文学部史学科「史料学」、学習院大学「資料整理法」(学芸員課程)、学習院大学総合講座「記録保存と現代」(分担講義、一二月)

安藤正人
著書「江戸時代の漁場争い—松江藩郡奉行所文書から—」(臨川書店、八月)

論文「A challenge to archival development and archival science in Japan」[ARCHIVUM Vol. XLIV, 1999, pp. 139-156.]

注釈・監修「本渡市古文書史料集・天草大庄屋木山家文書 御用触写帳 第四巻」(本渡市教育委員会、三月)

講演「現代社会とアーカイブズ—デジタル情報社会とデータ保存の危機—」(企業史料協議会「第一回アーカイブズセミナー」、五月二八日、東京)

講演「未来への架け橋—記録史料(アーカイブズ)でつなごう人・地域・地球—」(群馬県立図書館公文書等保存専門講座、一〇月一日、前橋)

講義「記録史料論—アーカイブ・サイエンスを考える—」(国立公文書館公文書館専門職員養成課程、一〇月五日、東京)

報告「Recent development of archival education in Asian countries」(ハプライ大学、イスラエル)

アーキビスト協会、国際文書館評議会専門職教育部会共催シンポジウム「四大洲におけるアーキビスト教育」、一一月一七日、エルサレム)

大学出講 学習院大学総合基礎講座「記録保存と現代」(非常勤講師)

大学出講 東京大学大学院人文社会学研究科多分野交流演習「文化資源学と人文社会学」(併任教授)

研究助成 文部省科学研究費補助金基盤研究(A)「第二次世界大戦期アジアにおける文書記録史料の略奪・廃棄・流出等に関する調査」(研究代表者安藤正人他五名)

研究助成 日本学術振興会特定国派遣研究者助成「第二次世界大戦時及び戦後の日本植民地及び占領地における記録史料の取り扱いについて」

大友一雄

著書「日本近世国家の権威と儀礼」(吉川弘文館、一一月二〇日)

論文「幕藩関係にみる武家儀礼」(「儀礼文化」二六号、四月一五日)

共同執筆「文書館活動と情報資源化の構想—古文書整理からの展開—」(「史料館研究紀要」第三〇号、三月)

小論「大名はいかにして文書を管理したか—文書管理のいま・むかし—」(大分県立先哲史料館「研究紀要」四号、三月)

講演「田中休愚の事蹟とその後の顕彰活動」(多摩信地域文化財団・あさる野市教育委員会主催、ルピアホール、一月二三日)

講義「日記にみる江戸の武家儀礼」(国文学研究資料館原典講読セミナー、八月二二・二三日)

大学出講 国学院大学文学部史学科(史料論)

大学出講 お茶の水女子大学教育学部人文科学科(史料情報論)(前期のみ)

研究助成 科学研究補助金基盤研究(C)「近世の国家的祭祀儀礼に関する基礎的研究」(三年目)

山崎 圭
報告「信州御影役所の郡中取締役阿部源石衛門について」(信濃史学会

総会、五月三〇日)

・報告「文久二年「勸農地方御改御勘定方御廻村御用向日記」の検討」(信州農村開発史研究所、八月二七日)

・展示解説「興禅寺所蔵文書の解説」(長野県木曾福島町興禅寺宝物殿、一〇月二三日)

・研究助成 科学研究費補助金奨励研究(A)「近世・近代移行過程における中間層の役割と地域社会に関する研究」(二年目)

千々和 到

・論文「誓約の作法―「ユビキリ、ゲンマン」の歴史―」(国学院大学日本文化研究所編「日本文化を知る講座」第一集、三月)

・論文「板碑の履歴書」(町田市立博物館編「多摩の板碑」、八月)

・報告「板碑を史料とするについての方法的検討」(東国文化研究会主催「板碑シンポジウム」基調報告、八月二二日)

・講演「東国文化にみる中世の石塔」(神奈川県立歴史博物館、七月一八日)

・講演「板碑で読む多摩の中世」(町田市立博物館、九月五日)

・松島周

・論文「北条時政の七ヶ国地頭職と惣

追捕使」(「日本文化論叢」第七号、三月)

・解説「二〇〇問一〇〇答 源頼朝の生涯と謎」(歴史読本)八月号)

・単著「武鑑出版と近世社会」(東洋書林、九月)

・共編著「江戸幕府役職武鑑編年集成」第六期 卷三一―卷三六(東洋書林、四月)

・共編著「江戸幕府大名武鑑編年集成」第一期 卷一―卷六(東洋書林、一月)

・論文「本朝通鑑」編修と史料収集―対朝廷・武家の場合―(史料館「研究紀要」第三〇号、三月)

・論文「近世後期西園寺家の家臣―諸大夫を中心に―」(学習院大学史料館紀要)第二〇号、三月)

・小論「大名の日記と『国史館日録』を読む―大老榊原忠次の死をめぐる―」(文部省科学研究費補助金・特定領域研究報告書「諸藩江戸屋敷のネットワーク」三月)

・書評 太田正弘「幕末諸侯綜覧」(「日本歴史」第六一六号、吉川弘文館、九月)

・新刊紹介 安藤正人「草の根文書館の思想」(「歴史学研究」第七二七号、青木書店、九月)

・分担執筆「日本古典籍書誌学辞典」(岩波書店、三月)

・分担執筆「岩波日本史辞典」(岩波書店、十月)

・報告要旨「日本近世の出版メディア―武鑑の受容を素材として―」(「関東近世史研究」第四四号、三月)

・報告「武鑑出版と近世社会」(於国際日本文化研究センター、三月二十六日)

○人事異動

・採用(一九九九年一〇月一日付) 研究支援推進員 清水泉二

・採用(二〇〇〇年二月一日付) 研究支援推進員 佐藤経磨

○当館出版物頒布のお知らせ

「史料館所蔵史料目録」は既に昨年度刊行の第六八集「山城国諸家文書目録(その二)」から、「史料館研究紀要」は、本年三月刊行の第三一号から、株式会社名著出版で人手可能となりますのでお知らせいたします。

本年三月刊行の「目録」と「紀要」の詳細については、本号の報欄をご参照下さい。

○閲覧業務停止のお知らせ

蔵書点検の実施にともない、左記の期間の閲覧業務を停止します。四月二十五日(火)―五月二日(火) 閲覧業務再開 五月八日(月)―

二〇〇〇年度史料管理学会(通算四六回)の開催予定

(長期研修課程)

国文学研究資料館 東京会場

前期 七月三日―七月二八日

後期 九月四日―九月二九日

(短期研修課程)

松江市 十一月六日―十一月十七日

(前・後期、短期とも最後の二週間はレポートの作成にあてる)

史料館報 第七二号

二〇〇〇年三月三十一日

編集兼 国文学研究資料館

発行者 史料館

〒一四二一八五八五

東京都品川区豊町二六ノ〇

電話〇三三七八五七三(代)

FAX〇三三七八五四四五六

印刷所 東京都台東区寿三ノ一四ノ五

有限会社 スミダ

電話〇三(三八四)七三三三